

【文学部 英文学科 各入学試験の選抜方法等】

■ 一般選抜 前期日程

〈選考方法〉

大学入学共通テスト、調査書、志願書により合格者を決定します。個別学力試験等は実施しません。

〈大学入学共通テストで受験すべき教科・科目、及び配点等〉

必要な科目数	大学入学共通テスト利用教科・科目				配点	個別学力試験	個別学力試験の配点		
	教科	科目	科目選択方法						
3教科3科目または5教科5科目	国語	「国語」		2科目選択または4科目選択	100	課さない	なし		
	地理歴史	「世界史B」「日本史B」 「地理B」			1科目選択			100	
	公民	「現代社会」「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」			1科目選択			100	
	数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」 「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」			1科目選択			100	
	理科	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」			から2 (A)			(A)	100
		「物理」「化学」 「生物」「地学」			から1 (B)			または (B)	
外国語	「英語」		(必須)		200				
					3教科3科目型 計400点 5教科5科目型 計600点				

- 1) 3教科3科目型と5教科5科目型の選抜方法を用います。5科目型の受験科目を満たす志願者は5科目型と3科目型の両方で選考を行い、3科目型の受験科目のみを満たす志願者は、3科目型のみで選考を行います。どちらの選考でも、「外国語」を必須とし、3教科3科目型は「大学入学共通テスト」の合計400点満点、5教科5科目型は「大学入学共通テスト」の合計600点満点とします。
- 2) 理科の基礎を付した科目（「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」）については、2科目の受験で1教科とみなします。
- 3) 外国語の「英語」は、「リーディング」と「リスニング」の配点比を1:1とします。
- 4) 選択の教科・科目について、必要教科・科目数以上受験した場合は、そのうち得点の高い教科・科目を使用します。
- 5) 調査書は点数化せず、志願者の本学科への適性判断に活用します。
- 6) 志願書は点数化せず、本学科のアドミッション・ポリシーに照らし合わせ、志願者の適性判断に活用します。

■ 一般選抜 中期日程

〈選考方法〉

大学入学共通テスト、個別学力試験により合格者を決定します。

〈大学入学共通テストで受験すべき教科・科目、個別学力試験の教科・科目、及び配点等〉

必要な科目数	大学入学共通テスト利用教科・科目				配点	個別学力試験	個別学力試験の配点 (試験時間)
	教科	科目	科目選択方法				
3教科3科目または5教科5科目	国語	「国語」			100	英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅰ）	200点 (100分)
	地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」			100		
	公民	「現代社会」「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	1科目選択				
	数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」 「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」	1科目選択		100		
	理科	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	から2 (A)	(A) または (B)	100		
		「物理」「化学」 「生物」「地学」	から1 (B)				
	外国語	「英語」	(必須)		200		
					3教科3科目型 計600点 5教科5科目型 計800点		

- 1) 3教科3科目型と5教科5科目型の選考方法を用います。5科目型の受験科目を満たす志願者は5科目型と3科目型の両方で選考を行い、3科目型の受験科目のみを満たす志願者は、3科目型のみで選考を行います。どちらの選考でも、「外国語」を必須とし、3教科3科目型は「大学入学共通テスト」(400点)「個別学力試験(英語)」(200点)の合計600点満点、5教科5科目型は「大学入学共通テスト」(600点)「個別学力試験(英語)」(200点)の合計800点満点とします。
- 2) 理科の基礎を付した科目(「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」)については、2科目の受験で1教科とみなします。
- 3) 外国語の「英語」は、「リーディング」と「リスニング」の配点比を1:1とします。
- 4) 選択の教科・科目について、必要教科・科目数以上受験した場合は、そのうち得点の高い教科・科目を使用します。
- 5) 調査書は点数化せず、志願者の本学科への適性判断に活用します。
- 6) 志願書は点数化せず、本学科のアドミッション・ポリシーに照らし合わせ、志願者の適性判断に活用します。

■ 学校推薦型選抜（一般）

〈選考方法〉

小論文、調査書・推薦書、志願書の総合判定により合格者を決定します。

- 1) 「小論文」70パーセント、「提出書類」30パーセントの配点で合否判定を行います。
- 2) 「小論文」は、英語の読解力と英語による表現力を見る問題形式です。英語の読解力を見る問題では英文を日本語で要約したり、英文の内容について日本語で論述する形式です。英語の表現力を見る問題は、日常的なトピックに関する自由英作文等を含む問題形式です。
- 3) 調査書・推薦書に記載された以下の民間資格・検定試験の結果を評価の対象に含めます。

実用英語技能検定、TOEFL iBT、TOEIC Listening & Reading Test、TOEIC Bridge Listening & Reading Tests、GTEC

- 4) 志願書は点数化せず、本学科のアドミッション・ポリシーに照らし合わせ、志願者の適性判断に活用します。
- 5) 出願資格は、評定平均値 3.8 以上とします。

■ 総合型選抜

〈選考方法〉

実技試験、面接、調査書、志願書の総合判定により合格者を決定します。

- 1) 実技は、英文の日本語要約、英文和訳、日本語の英文要約、和文英訳等で構成され、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を測ります。面接では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を総合的に測ります。
- 2) 「調査書」、「志願書」を活用し、「主体性・多様性・協働性」を測ります。

〈エントリー資格〉

[資格評価型]

- 1) 実用英語技能検定試験（英検）で2級以上を取得している。準1級以上の場合、実技は免除とする。
- 2) TOEIC Listening & Reading Test で520点以上を得点している。730点以上の場合、実技は免除とする。
- 3) 2019年6月以降実施の TOEIC Bridge Listening & Reading Tests のテストスコアで82点以上を得点している。
- 4) TOEFL iBT で48点以上を得点している。79点以上の場合、実技は免除とする。

※1) から 4) の資格・検定試験について、エントリーの時点で取得していれば、取得時期の制限はありません。

[活動評価型]

- 1) 都道府県レベルの英語スピーチ・コンテスト（レシテーション・コンテストは除く）において3位以内に入賞したことがある。

- 2) 高等学校在学中に、英語で授業を行っている海外の高等学校に一学年相当留学したことがある。
- 3) 日本語（国語）以外の科目の授業を英語で行っている、国内および海外の高等学校を卒業している。